令和3・4年度「『未来を生き抜く人財育成』学力保障スクラム事業」の取組　B小学校

現状と課題

4年生全体では、落ち着きがあり授業中の態度もよい。上位と下位との差があり下位の児童について支援が必要である。5年生については、落ち着いて学習に取り組める児童もいるが、周りのことが気になり、なかなか集中して学習に取り組めない児童もいる。

●県学調において、令和4年度の実施結果

第4学年学力レベル→国語6-C（県6-C）
算数5-C（県5-B）
第5学年学力レベル→国語6-C（県6-A）
算数5-B（県6-C）

両学年とも、前年度までと比較して県と僅差になってきている。

現状と課題をもとにした仮説

(1) 対象児童の変容（数値的な変化・質的な変化）
情報端末を使用したり、習熟度別少人数指導、個別の支援・指導を行ったりすることにより、学力の伸びが期待できるであろう。

(2) 学年全体の変容（数値的な変化・質的な変化）
情報端末の活用を視野に入れた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことよって、質の高い学びが実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力が身に付くであろう。

(3) 学校組織に係る仮説
組織を整えることにより、学習の環境づくり・整備ができ、児童の学力の伸びが期待できるであろう。

事業実施報告

1学期
・研究のまとめに向けて、端末活用を深めるなど校内での情報発信。

夏休み・2学期
・研究のまとめに向けての授業・教材開発。・授業研究の実施。手立ての検証・埼玉県学力・学習状況調査の分析。

3学期
・研究のまとめ

仮説をもとにした取組内容

取組①　対象児童の変容
●「算数における習熟度別少人数指導」

4年生・5年生の算数では、3クラスの児童を習熟度別の4チームに分け、それぞれの児童の特性と習熟度に合わせて学習展開を変化させ、効果的な学習になるように工夫している。

取組②　対象児童の変容
●「国語における取り出し指導」

4年生・5年生の国語では、全クラス週3枠の取り出し指導の時間を設け、学力に不安を抱える児童（本人希望＋担任推薦）を取り出して別室指導を行っている。漢字や文章の読み取りなど、一斉指導での内容等のフォローアップなどを行い、一斉指導に戻った時に困らないよう指導を行っている。

取組③　学年全体の変容
●「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善

本校では、本年度「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をテーマに研究発表を行った。児童の実態や単元の特徴、教科の特性により、フレキシブルに変化する問題解決的な学習過程が教師・児童に浸透し、深化してきている。

取組④　対象児童及び学年全体の変容
●情報端末の活用を視点に入れた授業改善

各学年とも、GoogleClassRoomやjambord、meet、GoogleFormsなどを活用した授業改善を進めている。児童の学習意欲も高まり、また、感染防止と「話合い活動」の両立を図ることに成功している。

令和3・4年度「『未来を生き抜く人財育成』学力保障スクラム事業」の取組　B小学校

現時点での成果

成果①　習熟度別少人数指導を行うことによって、算数に苦手意識を持っている児童でも、授業の中で自分の考えを発表したり、友達と共有したりするなかで、考えを深める機会を多く持てている。その結果、県学調においても、「学力の伸び」は県の平均を上回っている。

成果②　取り出し指導の時間を設け、個別で指導することによって、国語に対して困難さを抱えている児童も少しずつ自信を持ち、前向きに学習に取り組めるようになってきている。一人一人に対応したカリキュラムを組むことが可能なため、充実した時間を過ごしている。

成果③　学力の伸び

現5年生は5割以上の児童が学力の伸びを示している。現6年生は算数で伸びた割合が下がったが、6割近くの児童が学力の伸びを示している。

〇国語

	令和３年度	令和４年度	令和５年度
令和４年度 第４学年			69.3
令和４年度 第５学年		50	69.1

〇算数

	令和３年度	令和４年度	令和５年度
令和４年度 第４学年			52
令和４年度 第５学年		66	57.3

成果④　情報端末を活用した授業改善

〇情報端末を活用した授業や家庭学習などの実践がさらに蓄積されてきている。
〇どの教師もタブレットを使用した授業を多く展開し、新しい実践例を日々研究し、授業の質の向上につながっている。

令和４年度における研究の成果
・研究を通じて、児童の情報端末機器の使い方が格段にレベルアップした。
・授業の中で学習用パソコンを使い、写真や動画を撮ることにより、前時の学習の様子がよくわかった。
・Googleスライドの活用により、グループでの意見交換や話合いがスムーズにできた。また、まとめのスライドを作成することで、他の班の意見を知ることができた。

課題及び次年度に向けて

・令和5年度の県学調を分析することにより、全体、及び抽出児童の伸びを検証する必要がある。
・補習授業など、授業以外での指導の可能性も探る必要がある。
・情報端末は、使えば良いというものではなく、どのような場面でどのような活用をするのが効果的なのかを、さらに追求していきたい。

（児童の実態に合わせた授業展開例～　Styte～）

	Style	A	A' オンライン補充型	B	C
展開の指針		適用問題で自力解決の力をつける	自力解決の力を持つ	自力解決の力を持つ	学び合いを充実させる
導入	課題をつかむ	全体	全体	全体	全体
	見通す	全体	全体	全体	全体
展開	自力解決	グループや全体で協力して問題を解決 ↓ 全体に発表 ↓ 全体で練り上げ	個人	個人	個人
	集団解決		友達との考え方の共有 ↓ 発表	グループで練り上げ ↓ 発表	グループで発表 ↓ 練り上げ ↓ まとめ
まとめ	まとめ	全体	全体	全体	全体で練習
	適用問題	個人	個人	個人	個人
	振り返り	個人	個人	個人	個人

本校の学習過程

児童の実態や単元・教科の性質により、フレキシブルに課程を変化させる、問題解決的学習過程